へっぽこ
教官の催眠忍術!?
雪泉+詠編
●ストーリー付きCG集
Black and White

こんにちは、俺は忍学生達の指導をしている教官だ
そう、とても優れた教官だ

それなのに、最近は受け持つ生徒が1人もいなかった

そんな時に
ある巻き物と出会った…

「猿でもできる催眠忍術」

そんなわけで
この忍術を使うために以前から目をつけていた
生徒の雪泉（ゆみ）に試したところ
見事に成功した。

それからは、とんとん拍子に
話はすすんでいき、とうとう授業（エッチ）を
実行することができた。

催眠忍法に感謝だな。

そして初めての授業（エッチ）から2日後
今は雪泉とまた会う約束をしていた

うん、大丈夫だよな…
まだ催眠忍法、かかってるよね？

いきなりお縄になったり、攻撃されたりしないよね？
そんな心配をしつつ、待ち合わせの
俺の部屋へといった…

「教官、お待ちしておりました！」
「んん？ああ、待たせたな雪泉
随分と気合が入っているみたいだけど」
「はい！
前回の授業から色々と勉強しました
今回もよろしくお願いします！」
「そ、そうか…
それは楽しみだ」
「はい、今回も…
よろしくお願いいたします！」
「こちらこそよろしく」
「はい、ではっ！」

ドカ!…

「あー、雪泉さん？」
「ふっふっふ…
前回の反省を踏まえて
今回は本気でいかせていただきます！」
「えーと、これからするのは
特別授業…だよね？」
ぷにぷん

「はいっ！
では参ります！」
ぷにぷん

「では、まずは接吻からです
私も色々と勉強しましたので
試させて頂きます。」
「あっはい…」
ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ

ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ
「んっ…ふぅ…
ぬちゅ…はぁ…」
（うん、たどたどしい感じだけど
これはこれでいいな）

「んっ…はぁ…
ちょっと難しいですね…」
「そうだな、これは慣れてくれば
もっと上手くなるはずだ」
「うんぅ…そうですか…
もっと練習しますね…」
ちゅ♡
ちゅ♡
ちゅ♡

「でも…んッ…これいいですね…
なんだか幸せな気持ちになります」
「あぁ、それにこれは授業の
最初としては順当な行為だからな」
「はい…
ではそろそろ次に
参りますね…んふぅ…」
ちゅ♡
ちゅ♡
ちゅ♡

「ふふっ…
では、前回のリベンジをさせて頂きますね」
「そういえば
前回はあまり上手くできなかったな」
「はい、ですので
今回は頑張らせて
頂きます！」
ぎゅむっ

「まずは、こう挟みまして
次に胸全体を使ってもみあげます」
「んっ！
あぁいい感じだ…」
もみ
もみ
「はい、やさしく包みこんでっと
次は…」

「んっ…ぬっちゅ
口を舌を使って…強く吸ってっ…」
「んあっ！これは…確かに
前回よりも確実によくなっているな」
「ふふふ」
むにむに

ちゅるるっ
「どうでしょうか？
気持ちいいでしょうか？」
むにゅ♥
むにゅ♥
「ああ、ちゃんと復習しているみたいだな」

「う～ん、教官…
頑張っているのですが、これでは
射精しないのでしょうか？」
「そうだな
気持ちいいのは確かだけど
刺激や吸い込みが弱いかな」
「刺激と吸い込みですか？
勉強不足でしたね…
次の課題にいたします」
「それで次は、どうする？」
「はい、では横になってください
私が上になりますので」
ちゅぱ
ぐりっ ぐり

「んっ！あっ…
はぁぁぁぁ…入りました！
今回は私からさせて頂きますね」
「うおっ…これは…
中がうねっていて
凄いことになっているな」
「はい、準備は
できておりましたので
動きますね」
ズッ
ズッ

「はっ…ふう…
ふっ…ううん…」
「あっ…やぁ…
どうでしょうか…
んんっ…
気持ちいいでしょうか？」
「そうだな
とても頑張っている
偉いぞっ」
「！？
ありがとうございます！」
「ああ、だけど」
ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる

「ちょっと動きが弱いかな？
では、そろそろ
こちらからも動こうかな」
「えっ！
あっ、ちょっ…
教官、ま、まってください」
「おっ、雪泉も感じてきたかな？」
「ひゃ、ひゃい！」

「やっ…はぁぁ！教官、ちょっと待ってください刺激が強過ぎて…あの、私…」
「うんうんどうやら雪泉は攻められる方が感じるみたいだね」
「ひっうっ…！あの、その…」

「さて、体位を変えて
そろそろイかせてあげるよ」
「いえ、その…
今回は私が」
「大丈夫、今までで
今日の授業は及第点だから」
「…はいっ」

「あん…やっ…
これは…激し過ぎて…
いいっ…」

「ひゃっう…
すごい…です…
ん…やっ…だめっ」

ぎゅぽっ♥
ぎゅぽっ♥
ぎゅぽっ♥
ぎゅぽっ♥

「雪泉、そろそろ
イきそうだな」
「はい…っ
私、もうイきそうですっ」
「あっ！
なにこれ
凄い…です…」

ビくビくっ
「あっああ！
やっあぁあぁぁー」
ドビュ
ドビュ

「はぁ…ふう…
雪泉、今回もよかったぞ」
「はっ…はぁ…
はい、ありがとう、ございました」
「ああ、だがまだまだだな
次も
よろしくな」
「は…はいっ…」

さて、と
催眠忍法も継続中で
持続性もあることが立証された。
雪泉との授業はそのままに
そろそろ次の子で
試してみたいんだけど・・・っと
たしか、この辺りにいたような
調査によると
雪泉の学校と違う子で
詠（よみ）という子だ
外見がお嬢様っぽくて
さらにとてもよい胸（おっぱい）をもっているようで。
あっと、いたいた！
あの子だ！

ART
DOWNTOWN STREET

よし、どうやって攻略しようかな
催眠忍法を使うにしても
何かとっかかりが欲しいし
少しでも気が引けて
誘えればいいんだけど
んん？
DOWNTOWN STREET
ART

LUCKY STRIKE

なにやら真剣に見ているな…
何をそんなに眺めているのか？
ちょっと回り込んでっと
LUCKY STRIKE

うん…？
もやしラーメン？
ええっと…
とっかかりは
これでいけるか？

「ちょっと、そこの君
少し話をいいだろうか？」
「はい？
なんでございましょうか？」
「私は忍を育てる仕事をしていて
ちょっと君に協力を
お願いしたいのだけど」
「はぁ？」
「もちろんタダとは言わない
ちょっと、そこでラーメンでも
一緒にどうだろうか？
もちろん『お礼』として
おごらせてもらうよ」

!?
LUCKY STRIKE

「それで～
私はどうすればいいのでしょうか？」
「ああ、私は忍を育てるための
特別な授業をしていてね
それの手伝いをしてもらえるかな？」
「お手伝い…ですか？」
「そう、実際に授業を受けて
もらって感想を聞かせてほしい」
「承知しました
もやしラーメン分は
きっちりお手伝いしますわ」

はい、成功しました。
もやしラーメンをご馳走してから
催眠忍法で色々と改変して
部屋までつれてきた。
それまでの道中
話をしてみたけど…
どうやらお嬢様ではないし
ちょっと
二面性をもってそうな子みたいだな
その辺りは気をつけなくては

「それじゃあ
早速、授業を始めようか」
「はい？」
ぷるっ
ぷるっ

『ささっと、授業に邪魔な服は脱いでしまおう』
『えっ？あの？ええっ――！』
ぶるぶる
ぷるん

「あの…？
こ、これは一体
どういうことなのでしょうか？」

「これって？
もちろん授業に決まって
いるじゃないか」

ぷるん

「今日は私の授業に
つきあってくれるんだよね？
約束は…守るよね？」
「えっ？
ちょっと、あの…
は、はい…」

どきどき
どき
どき
「あの…これでよろしいのですか？」
「うん、いいよ～そうそう少し緊張しているみたいだからリラックスして」
「はい、そうしたいのですが私も初めてのことでして…」

「そっかそっか
じゃあ、そのままじっとしていて
これからこれを君の中に入れるからね」
「ひゃっ！
そ、それは…なんですの？」
「これは男の性器だよ」
「こ、これが…
こんなに大きくなるんですの？」
ビク
ビク
ズイ…

「それじゃあ入れるから
リラックスして、力を抜いて…」
「はい…あの…
私の中に入ってきますわ」
ぎゅっ
ズボッ

どきどき
どき
どき
「入ったよ…
よくがんばった」
「はぁ…はぁ…
あそこがなにか痛かったり
むずむずしたりしますわ」

どきどき
どき
どき
「そうだね、ちょっと
つらそうだから
体位を変えてみようか」
「んっ…はっ…
はぁ…
は、はい…」

「後ろからだと
どうかな？」
「あっ…えっ…
やっ…なんですの、これ」
ムチャ
ムチャ
カクカク

「後ろから身体を突かれて
私の身体の奥に
熱いものが
出たり入ったり」
「でも…身体の奥底で
なにかがむずむずしますわ」

「どうやら
後ろからが
好みみたいだな
随分と
気持ちよさそうだし」
「あっ…んっ…
はっ…これは…
そう、気持ちいいんですわ」
カクカク
パンッ
パンッ
パンッ

「だいぶ良くなってきた
みたいだし
強めにいくぞ」
「はぁ…はぁ…」
ぶしゅ♥
ぶしゅ♥

ぱんぱん
ぱんぱん
「やぁ…激しい…
もう少し、ゆっくり
してほしいですわ…」

「そろそろイきそうかな？
最後は、正面からしようか」
「えっえっ？
あの…その…」

「そら、顔をみせてごらん」

「やぁ…もうだめですわ…」

「うんうん、いい表情になったね」

ぐぃっ♡

ぎゅっ♡

ギシッ

ギシッ

「大丈夫
このままイかせてあげるよ」
レロ～
レロ～
「はぁ…はんぁ…
あの、手を」
「うん？」
「手をこのまま
しっかり握って下さいまし」

「そっと…おっと…
ここドかふ…かわいここ…」
「ゆ…」…
ゆ!ふ…ゆ!ふかわかふ…」
「こレゆ」
「ぜこ…ぐ」
ぷるぷる
ぷるぷる

『やっ…なに…』

『あぁぁぁぁぁぁ――』

ドキドキ

ギュ――

도르르 뜸

『んっ…あはぁ…
入ってきてますわ…』
ビュー
ビクッ
ミルミル

「ふう…
これで特別授業は終了だ
詠、協力に感謝するよ」
「はぁ……ふう……
いえ、お役に立てたなら
嬉しいですわ」
ビクビク

ぎゅっ♥
「あ、あの…
もしもよろしければ
また、お手伝いさせて
いただきますわ」
ぎゅっ